

緊急カテの搬入マニュアル修正

シミュレーションで自信育成

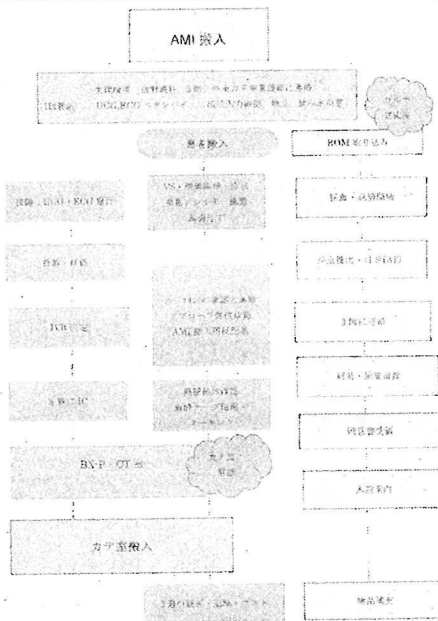
札幌白石記念

白石区の札幌白石記念病院（野中雅理事長、宮田節也院長・103床）は、外来における緊急心臓カテーテル治療の患者搬入について、外来看護師全員が対応できるよう、マニュアル修正やシミュレーション学習を実施。経験の浅い看護師では、外来における緊急心臓カテーテル治療の患者搬入について、外来看護師全員が対応できるよう、マニュアル修正やシミュレーション学習を実施。経験の浅い看護師では、

カテーテル室への患者搬入に1時間以上費やすケースが発生、課題になっていたことから、時間短縮とすべての外来看護師が対応できることを目標に、マニュアル見直しに着手。メインとサブの役割や流れを明確化し、心電図は来院直後に看護

師が処置室で実施する方法に簡略化した。この修正に沿って、外来看護師11人が、患者や医師役になったシミュレーション学習を実施。結果、平均20分以上の時間短縮を実現。搬入に全く自信がない」と回答していた看護師は8割からゼロになった。

新しいマニュアル



シミュレーション学習によって、全体イメージ、必要物品の理解ができるようになり、多くの看護師がその効果を実感。苦手意識が軽減したことで、積極的も強まったから、「今後は脳神経外科や救急外来での活用を考えていきたい」としている。